

1976.7.10

東京蜘蛛談話会

新入会員の紹介を致します。

貞元己良氏

226 横浜市緑区竹山町1丁目12-11

並木敏一氏

120 足立区十住大川町40-10

下村和秀氏

120 足立区十住大川町36-8

貞元氏は萱嶋先生のところによくいかれ  
クモの勉強をされている熱心な中学生です。  
並木・下村両氏は鈴木忠一氏(毎々  
楽会)の紹介で入会された中学生です。  
3氏共熱心にクモを採集・観察されてい  
る様子。頑張ってください。

6月13日・日黒区大橋区民会館で行  
なわれた例会・総会の報告をしてお  
きます。

プログラムは以下の通り。

はじめに。  
 他己紹介(後・自己紹介)  
 総会  
 タンガ=アからの帰国談。  
 スライド談話  
 蜘蛛の分布問題  
 おわりに。

司会・進行を栗原・田中(理)両氏が担  
当し、萱嶋先生が少し遅れたことを理由  
に、松本が会のあいさつをさせられました。  
(もう、そう(理)いうことをする年になつたのか  
と少々がっかり)。

他己紹介は、隣の方が順次紹介する

という形です。以下の順番に行なわれました。  
(矢印の方向で紹介) 例: 高橋(登)氏  
が加藤氏を紹介

加藤笑子←高橋登←佐藤幸子  
←松田まゆみ←松本祐二←新海栄  
←小澤賢樹←古沢隆←園見祐久  
←高野伸二←熊田憲一←権田重雄  
←貞元己良←萱嶋泉←蓮沼克己←  
松本誠治←相本幸一←栗原輝代  
子←田中理恵←(加藤笑子)

参加者は上記の19名+2名(脚注)  
紹介中、紹介されている人の中には  
冷汗の出た者、赤面された者、うまい  
紹介に感心された者などいろいろいた  
はずです。午前中は紹介のみで、きい  
ほ'いになるかと思っていたのが、あまり  
フンキウもせず、時間加余った都合で  
総会にうつりました。

新海栄一氏が議長になり、運営  
委員(51・52年)の選出と、その後、会費  
について訂議・決定を済ました。

51年52年の運営委員は以下の  
の通りです。

代表: 萱嶋泉  
庶務・会計: 新海栄一  
Kishidaia 編集: 熊田憲一・山崎守  
他: 栗原輝代子・権田重雄  
嶋田順一・高橋登  
田中理恵・松本誠治

以上10名ですが、委員の会費に付  
する割合は大変大きいのではないかと  
思います。十分な運営をせねばならぬ  
と思っています。

注) 参加者の19名+2名のうち、1名は、  
総会中に亡くなった、並木敏一氏です。  
標本を拝して参加されました。他の1  
名は KISHIDAIA No.40 とおぼしめした小野氏だ

運営委員の承認の後、52年度の会費について会針から議題が提出されました。現状では、No.40(KSHIDAIA)の編集後記でも、フリチャケラシタのようにKSHIDAIAの印刷代にもなりません。とはいは、高くするだけか能ではないと思えますが、会費以外の収入をあるにしているのでは、財政は不健全になり、………。結局、1500円(52年度)となりました。50年度の会計報告がそろそろ出来ると思います。それを参考にたまたまいろいろ意見あきかせ下さい。この通信の廃止も考えましたか、現研桌ではアンケート結果の集約として、継続させるのが、正しい方向との由、総会で意見が述べられました。これについても意見あきかせ下さい。個人の意見としては、寄付については、いくらでも大歓迎する方がよいと考へます。会計報告は、十分、無理のない運営が行なわれていたことが明記されていれば、ゆるいように思われるのがあつか……。また地方の方々には、不平等にならないように、会費全額に行きわたらない行事はなるべく断念した形で行うべきです。いままでは行なわれていると思えますので、その真については安心しております。

昼食は外組と内組に分れて、ゆめがれ亭しく過しました。内組の栗原氏はアレルギーの抗原テストで、花粉抽出液を両腕に注射されて、痒くてたまらぬ様子でしたし、松本も春バテ(?)が体調をくずしましたので、昼食後の内組でした。

午後には、国見裕久氏がスリッパの出席で、帰国談を多数のスライドを使ってしてくれました。Tse-tseバエの防除で、タンカ-アに行っており、仕事の間には調べたクモは、大抵日本と似ているとのこと、大抵のクモなどは、少なく、大抵日本产的な感じがする。Tse-tseバエの防除の話の中で、セントリア湖上の

小島にいたTse-tseバエは、Nephilaにあって、個体数が制御されているとのこと、そのため、この島をSpider Islandと呼んでおられると聞いています。興味深いことでした。またキヤツバの懸圃のクモ相は、80~85%がアテナがクモ科で、これはついで、ヒメクモ科ハナリクモ科・カニクモ科となり、コガネクモ科は、大抵少ないとされています。国見氏は、採集法に原因があったかもしれないとは、あつし、していました。また、Tse-tseバエを多く捕えるクモは、上記のNephilaの他、カニクモ、ハナリクモがいるとされています。

国見氏の話のあと、相本氏が8mmを映写。トリノクマシ、カウリケオクモなど、珍らしいクモが画面に出て、あつらされました。スライドは、高野伸二・小野展嗣・新海栄一の名氏が、力作をみせてくたしていました。そのあと、クモの分布問題と題して、新海栄一氏が、日本におけるクモの分布線はどのようになっているかを、いままでのクモの採集記録を基にスライドを使って、話されました。

閉会の辞は、萱嶋先生によって行なわれ、最後をしめくくっていたことになりました。簡単ですが、報告を終ります。  
(松本・記)

談話会会費

51年 1,000円  
52年 1,500円

51年度未納の方、宜しくおねがひいたします。今夏の本会吹上り学会大会に参加される方は、その時でも結構です。

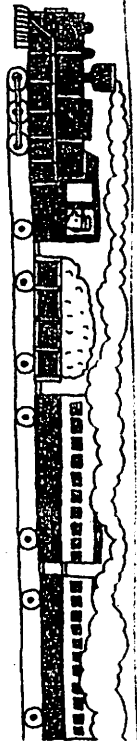
KSHIDAIA No.42  
原稿募集

編集者が小野氏より熊田・山ノ内氏に変わりました。担当者をかきかきさせないよう、早めにご投稿下さい。Originalはそのまゝは(送附)のようなものがよいと思ひます。秘説など大歓迎です。詳しくは編集者へおたずね下さい。

# 旅のおしやべり

旅のちづ 1976年6月号  
18-19ページ  
(熊田憲一氏提供)

高橋ちひろさん(19歳)



岡山県との県境近く、ウラン鉱の埋蔵地で有名な人形峠には、昔

## ● 人形武者と妖怪



大グモがいて、人々は生きてこの峠を抜ける事ができませんでした。ある日、旅の武者が妖怪退治を引受け、美しい若武者姿に飾られた等身大の人形をかついで峠へ登りました。武上は人形を道の真中に立て、岩陰にかくれます。すると美しい娘が現われ、人形に話しかけ始めました。が相手が人形では返事をするはずがありません。娘はやがて腹を立てると本性を現わし、大グモになると人形に襲いかかり、岩陰の武上はこのスキに矢を放ち、大グモを倒したのです。以来、この峠は人形峠と呼ばれ、人々が安心して往来できるようになったと言います。



旅のちづ 1976年6月号  
18-19ページ

## 第2回 蜘蛛同定会

1976年8月15日(日)・目黒区立木橋区民会館  
一般参加者(会費外)大歓迎。

要領：70〜75%アルコール(消毒用アルコール)7液消毒薬本にして下さい。

同定票(当日用意してあります)に

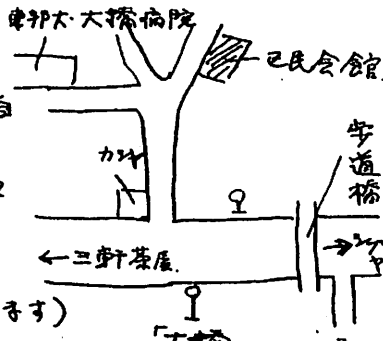
記入後、同定者のとこりに行って各自同定してもらってください。

70%についての費用は、遠慮なくして下さい。(必ず範囲でお答えします)

懇話会も開きます。

参加費：500円以内(会場代などは使います)

会費の方には、一般の方への呼びかけをお願ひ致します。



新しく入れられたオケのためにも、談話会の規約を再録します。

東京蜘蛛談話会規約 (1972年3月26日承認, 1976年6月13日部  
改訂)

1. 会の性格 本会は、クモ愛好者の集いである。クモに関心のある人なら、専門研究者・アマチュアの別なく、また年齢・性別の制約を受けない、互いに集り懇談をすることをその旨とする。
2. 会の目的 本会は上の性格に基づいて、会員相互の親睦・連絡をはかること、愛好者の底辺を拡大すること、及び専門研究についての案内・交付をすることをその目的とする。
3. 会の活動 本会は上の目的に沿うために、次の活動を行う。
  - i. 会誌 KISHIDAIA の発行
  - ii. 例会・採集観察会・講演会・映写会・総会等の開催。
  - iii. その他、会の目的を達成するために必要な活動。
4. 会員 所定の会費を納めた人を会員とする。会員は本会の行う全ての活動に参加することが出来る。また会誌 KISHIDAIA の配布を受け投稿することが出来る。
5. 会計 本会の経済的運営は、会費・寄付金・その他の収入を基とする。
  - i. 会費は 51年度 1000円、52年度 1500円とする。
  - ii. 会計年度は毎年1月1日より12月31日までとする。
6. 会の運営 本会の活動を円滑に行うため、本部・運営委員会・実行委員会を置く。また会員との連絡を明確にするため、会計及び会誌原稿の受付を置く。
  - i. 本部は運営委員会・実行委員会の連絡・統括の場とする。設置場所は別に定める。
  - ii. 運営委員会は会員より選出された数名の委員により構成し、本会の性格に基づく目的の達成に必要な諸活動の企画・実施を合議の上で行う。運営委員会内に、会計・編集・総務の係を置く。委員は総会において承認を受けねばならない。運営委員の任期は2年とする。但し再任はまたげない。
  - iii. 実行委員会は、運営委員及び運営委員会により委託された若干名の会員により構成し、特に活動内容 3の ii の計画・実施に当る。原則として臨時のものとする。
  - iv. 会費の受け入れ、会誌・バックナンバーの発送を行う所として会計受付を置く。場所は別に定める。
  - v. 会誌 KISHIDAIA の投稿原稿の受け入れのため、会誌原稿受付を置く。場所は別に定める。
  - vi. その他の会員との連絡は運営委員及び実行委員がこれに当る。
7. 規約の改正 上の規約の改正については、総会において討議・承認されねばならない。改正についての議題は、全会員が、その提案を行うことが出来る。

(付 記)

本部：191 東京都日野市豊田1896 萱嶋泉方 phone: 0425-81-7128  
 会計受付：185 東京都国分市本町1-6-6 新海栄一 方 phone: 0423-21-0289  
 原稿受付：221 神奈川県横浜市中区川口2-5-19 熊田憲一 方 phone: 045-471-0772  
 R2. 240 神奈川県横浜市中区保土ヶ谷2-2-11 島岡37-3 山崎守 方 phone: 045-381-2425

51年度・52年度運営委員

萱嶋泉・熊田憲一・栗原輝代子・権田聖雄・嶋田順一  
 新海栄一・高橋登・田中理忠・松本誠治・山崎守

本会代表：萱嶋泉，会計・総務：新海栄一

会誌編集：熊田憲一・山崎守

会計監査：大河内哲二・福本伸男

「ほかのやつらが彫つたらんとを彫ちくれ」

と、頼めば何とかしてくれるだろう。そう決めていたのだが、彫り師の所へ行く前夜、まったくひさしぶりであのへさがり蜘蛛の夢を見たのだ。

それは女の子と一緒に手を握り合っただけで、私刑されていた坑夫の姿ではなく、子供心に頭の中で思い描いていた天井から夜を降りてくる紅蜘蛛の姿だったのである。

へそいつに決めた。

重蔵は夢の中でそう決心した。果してそれが本当の夢だったのか、半ば目醒めていた状態だったのかはわからない。

「真赤な蜘蛛は彫ちくれ」

と、彼が頼んだとき、彫り師は呆れた顔をした。

「どげな蜘蛛ね」

こういうやつだ、と重蔵はそばにあった紙片に書いて渡した。眉口から下をうかがっている蜘蛛である。

「あとから後悔すぞ」

「せん」

重蔵はさつと裸になって彫り師の前によこたわった。おれのは、さがり蜘蛛ではなくて、へさばり蜘蛛だ、と彼は考えた。おれがもし天井から逆さに吊られれば、この蜘蛛は天に向いて躍るだろう。

その時、単なる思いつきで想像したその結果が、後で事実になろうとは彼は夢にも考えなかった。

重蔵の刺青は、彫り師が思わず唸るほどの見事なあがりかただった。幅広い彼の肩を抱くように手足をひろげ、斜め下方へ飛びかかろうとする勢いを見せた真紅の蜘蛛は、筑豊の男たちの間でも、ます、二つとない図柄だったろう。重蔵が両手を動かすと肩と背中の中の筋肉が動き、蜘蛛がかすかに手足を動かすように見えた。

「これで男になった」

と、重蔵は心が躍った。背中に蜘蛛を背おったことで、自分ができるで生れ変わったような気がした。

「今日からは一人前だ」

その年の夏は、彼にとって蜘蛛を背おってはじめての夏だったのである。

五不寛之「青春の門・筑豊篇」夕陽と刺青」より、講談社文庫A1322・pp.31-32

## 新入会

西嶋 啓一氏

759-23 山口県美祢市  
於福町神柳

西嶋氏は、KISHIDAIAのバックナンバーを全部入手されました。東京からは選いので、投稿などによって協力をしていたら「またい」と思います。

。51・52年の運営委員が承認されました。総会の期日が、年度の途中なので、形式的には不都合があるかもしれませんが、実際の運営には、支障なく会を動かすよう努力しています。会員の方々が、運営内容について、監督してくだされれば、現在のままでも十分と思います。宜しくご協力下さい。

。会費が50% upとなり、1,500円になりました。同好会として、は、いまのところは、この額が限度のようにも思います。会費は、全会員のために使うようにというのは、大切な考えだと思います。会員が全国にいますので、これは、守らねば、不公平な運営・活動をすることになるでしょう。公平さを確かにするためにも、多くの方からのご意見、ご意見、ご意見を伺いたく存じます。会費納入と共にお知恵のすも出して下さい。

。会費が1500円になるのは52年ですから、51年は1000円のまま。これでは、今年中にエンストになるような気がします。ぜひ、1箇所づつ指でも投稿をすから、特別給油にご協力下さい。単自体は燃費のよいです。

。会の財政整理のために、バックナンバーの代金を今日の規準にしたらという意見もあります。学利団体には、「すみませんか?」心配です。次回、運営委員会でご討議の予定です。

。8月2・3・4日の3日間、伊豆半島石廊崎に、合宿の予定です。人数は10名までです。先着順という事に致します。詳しいことは、本会代表、西嶋先生におたずね下さい。

。8月15日は、同定会です。一般の方々にも、声をかけて下さい。

。8月21・22日は、東亜秋葉学会第8回大会です。大阪で開かれます。今年、創立40周年と、盛大に行なわれるようです。

。KISHIDAIA No.41の原稿募集です。10大ニュースになるような記録がありましたらご紹介下さい。採集記録だけでなく、ニュースではないと思います。

## 東京秋葉談話会

本部：191 日野市豊田1896  
西嶋 啓一 0425-81-7128  
合計：185 国分寺市本町1-6-6  
新海 栄一 0423-21-0289  
編集：221 横浜市神原4区内倉  
199 熊田 憲一 045-491-0792  
： 240 横浜市保土ヶ谷区東町  
島町37-3 山内 守一  
045-381-2425

KISHIDAIA 40号、51号発行。  
会費、51年度1000円、52年度1500円  
バックナンバー(23頁)入手可能  
本通信の発行責任は本会にあります。